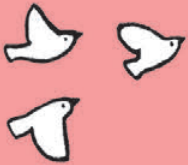


家でもない。
職場や学校でもない。
3つめの場所で何しよう。



SINCE 2012



アートを介してコミュニティを育む ソーシャルデザインプロジェクト

「とびらプロジェクト」とは？

「とびらプロジェクト」とは、東京都美術館と東京藝術大学が連携して行なっているアートを介してコミュニティを育む事業です。毎年広く一般からアート・コミュニケーター（愛称：とびラー）を募集しています。とびラーは、学芸員や大学の教員、また第一線で活躍中の専門家を中心としたプロジェクトチームと共に美術館を拠点に活動しています。とびラーの活動は、美術館で多くの作品に出会い、対話することから全てがはじまります。人と作品、人と人、人と場所をつなぎ、美術館に集まる多種多様な人びととのコミュニケーションを大切に、そこで育まれた新しい価値観を社会に届けていきます。

東京都美術館の ミッション

東京都美術館は「アートへの入口」となることを目指します。展覧会を鑑賞する、子供たちが訪れる、芸術家の卵が初めて出品する、障害のある人も何のためらいもなく来館できる美術館となります。訪れた人が、新しい価値観に触れ、自己を見つめ、世界との絆が深まる「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き、「生きる糧としてのアート」に出会える場とします。これらを実現することで、東京都美術館が人びとの「心のゆたかさの拠り所」となるようにします。



東京藝術大学からの メッセージ

東京藝術大学は、芸術の基本である「もの」としての作品に加えて、「こと」としての芸術に取組み、市民が芸術に親しむ機会の創出に努め、芸術をもって社会に貢献します。アートを介したコミュニティづくりは、作品を創造する人、そしてそれを享受する人を含め、人びとのクリエイティブな力が生きる社会をつくることにつながります。

アート・コミュニケーター（愛称：とびラー）とは？

- アート・コミュニケーター「とびラー」とは、東京都美術館の略称「都美（とび）」と、「新しい扉（とびら）を開く」の意味が含まれた愛称です。会社員や教員、学生、フリーランサー、専業主婦や退職後の方など18歳以上の様々な人たちで構成されています。
- 美術館で多くの作品に出会い、対話を通して新しい価値観を発見していきます。
- とびラーはボランティアな活動ですが、美術館のサポーターではありません。学芸員や大学の教員や専門家とともに活動する能動的なプレイヤーです。
- アートを介して誰もがフラットに参加できる対話の場をつくりだし、様々な価値観を持つ多様な人々を結びつけるコミュニティのデザインに取り組んでいます。
- とびラーの任期は3年間です。
- とびラーは、3年の任期を満了した後も、とびらプロジェクトとのつながりを保ちながら、アート・コミュニケーターとして実社会で活躍することが期待されています。
- 任期満了した後も多くのとびラーが、とびらプロジェクトを通して育んだスキルやネットワークを活かしながら、対話のある社会の実現に向けた活動を継続しています。



学ぶことと実践すること

まずはじめに！

いよいよ実践！

基礎講座 (4月～6月:全6回計24時間)

「基礎講座」は、新しいコミュニティづくりの基本を学ぶ講座です。1年目のとびラーは全員必ず参加します。美術館での活動とはどのようなものか？ 対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは？ など、とびラーの活動を支える基礎的な物事の見方を参加形式で学んでいきます。



谷中地域での活動についてフィールドワークを行う様子

Lecturers' profiles



日比野克彦 東京藝術大学教授 とびらプロジェクト / Museum Start あいうえの 代表教員

作品制作に加え、多くの人とワークショップ形式で地域の特性を生かした活動を行っている。受け取り手の感受する力に焦点をあて、社会で芸術が機能する仕組みを創出する。



西村佳哲 働き方研究者 / リビングワールド代表 / とびらプロジェクト・アドバイザー

つくる・書く・教える、3種類の仕事。ウェブサイトやミュージアム展示物などのデザインプロジェクトの企画・制作ディレクションに従事。著書に『自分の仕事をつくる』など。



森 司 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 事業推進室事業調整課長 / とびらプロジェクト・アドバイザー

人・まち・活動をアートで結び、東京のさまざまな魅力を創造・発信する「東京アートポイント計画」ディレクターを勤める。アーティストと市民との協働を実施している。



稲庭彩和子 東京都美術館学芸員 アート・コミュニケーション係長

神奈川県立近代美術館にて展覧会および地域や学校と連携したプログラムに従事。2011年より東京都美術館に勤務。共著に『100人で語る美術館の未来』（慶応義塾大学出版会）など。



伊藤達矢 東京藝術大学特任准教授 とびらプロジェクト / Museum Start あいうえのプロジェクト・マネージャー

地域で行なわれるアートプロジェクトのディレクターを勤めるなど、多様な文化プログラムの企画立案に携わる。共著に『TOKYO1/4が提案する東京文化資源区の歩き方』（勉誠出版）など。

実践講座 (7月より)

「実践講座」では、美術館で起こる実践的な場面を想定して設けられた3つのコース「鑑賞実践講座」「アクセス実践講座」「建築実践講座」の中から1つ以上を選択でき

1 鑑賞実践講座

対話を通して作品を楽しみ、鑑賞を深める活動について学びます。鑑賞者が自由な発想で、主体的に鑑賞できる機会をつくるにはどうしたらよいか、「鑑賞の場をつくる側」の視点を持ちながら考えていきます。

- ・対話による作品鑑賞のファシリテーションを学ぶ
- ・国内外の美術館や学校での鑑賞プログラムの事例を知る

例えば、ココで活かされます

スペシャル・マンデー・コース



展覧会の休室日を利用して、学校単位で美術館に訪れることもたちの鑑賞の伴走役として活動します。

museum start
あいうえの
*詳細は裏表紙へ

学校とも、職場とも違うフラットな第三の場所。私はとびラーの仲間に囲まれているときにそう感じるのですが、美術館に来る人にとってもその感覚を持ってもらえるように、と心がけています。年齢も職業もなにも関係なく、どんな人にも都美には居場所があります。

たくさんの方が美術館を身近に感じるきっかけを作りたくとびラーになりました。仕事の枠組みでは難しいことも、とびらプロジェクトでは挑戦できます。作品と向き合うと、見る人は感受性を働かせて素直な自分に出会う。その時間に関わることが幸せです。

とびラーの声



園田さん

「本当の自分でいられる場所。たとえビックリでなくてもそこに少しでも近ければ、という気持ちでとびラーに参加しました。すでに過去に創られた資源を活用しながら、さらに加えて「みんなで創ってゆく」という実践の体験がここにはあります。「何処かの誰かがきっと君を待っている」...そんな場所です。



田嶋さん



今井さん

とびラーは「基礎講座」、「実践講座」、「とびラボ」を通して、東京都美術館のミッションと東京藝術大学からのメッセージを共有し、とびラーとしての役割の理解を深めていきます。学ぶことと現場で実践することのサイクルがあることで、美術館を拠点とした活動がさらに充実したものになっていきます。

ます。各講座は専門の外部講師や学芸員、大学の教員が担当し、実践の現場で気付いた疑問なども話し合いながら進められていきます。

2

アクセス実践講座

美術館にある作品や文化財を活かし、多様な人々が芸術や文化につながるための新たな回路をつくる活動と、その意義について考えます。

- ・多様な人々にとって意義のある美術館の活用について考える
- ・ワークショップのつくり方と実践のポイントを学ぶ

例えば、ココで活かされます

障害のある方のための特別鑑賞会



障害のある方のための、休室日を利用した特別鑑賞会です。とびラーは会場の運営や鑑賞のサポートを行っています。

ミュージアム・トリップ



ミュージアムにアクセスしにくい問題や、カルチャー・ギャップなどの社会課題に対応するプログラムをアート・コミュニケーターと一緒につくっていきます。

museum start
あいうえの

仕事の場所が本流としたら、とびらプロジェクトはもう一つの居場所。そこには、色々な立場のとびラーと、アートを通じて様々な人と出会い、見方や考え方に触れ、楽しみながら学び、考える機会が沢山あります！



今村さん

3

建築実践講座

前川國男が設計した東京都美術館の建築への関心を軸に、より広い視野で建築の魅力、建築と人々の関わりについて考え、建築空間があるからこそ生まれる活動をつくっていきます。

- ・東京都美術館の歴史を学ぶ
- ・ツアーコースをデザインすることで美術館の魅力を発見する

例えば、ココで活かされます

建築ツアー



とびラーは東京都美術館の建築物としての魅力を伝えるツアー・ガイドとして活動します。どのコースもとびラーのオリジナルです。

ずっとアートは才能がある人だけの世界だと思っていました。でも、とびラーになって、私でも、誰でもアートに関われることが分かってからは楽しくて仕方がありません。アートから広がるコミュニケーションを、これからも伝えていきたいです！



並木さん

多様な顔ぶれが集まるからこそ生まれる化学反応や発想の広がりには、いつも驚かされますね。企画している本人たちも、どこへ転ぶかわからない面白さがあります。もちろん、来館者を想定して真剣に議論する場面も必要で、その緊張感もけっこう好きです。ゆるやかだけどホットな集まり、それがとびらプロジェクトです。



茂さん

つどうこと♡はぐくむこと

とびラボをひらこう！「この指とまれ式」と「そこにいる人が全て式」から新しいプログラムが生まれます。

とびラボ

「とびラボ」とは、とびラー同士が自発的に開催するミーティングであり、新しいプログラムの検討と発信が行なわれる場です。様々なバックグラウンドを持ったとびラーにより、「この指とまれ式」と「そこにいる人が全て式」でオリジナルの活動が生まれ、アートを介したコミュニケーションの可能性が大きく広がっています。



また、「とびラボ」はとびラー同士のゆるやかなコミュニケーションの場でもあり、対話から生まれる充実した時間が、美術館に新しい価値観を注ぎ込んでいます。

例えばこんなプログラム

ベビーカーツアー



赤ちゃんと暮らしながら忙しい毎日を送るご家族にも美術館を楽しんでほしいという思いから生まれたツアー。展示室内ではとびラーがしっかりとサポートし、お話ししながら一緒に作品を鑑賞します。

アート筆談 de 対話鑑賞



耳の聞こえない人と聞こえる人が、いろいろな画材を使いながら筆談で対話するワークショップ。展覧会を見た後に、気づきや感想を言葉やイメージで伝えます。次々とイメージが連想され、筆談の可能性を広げます。

イロイロとび缶バッジ



展覧会の要素を取り入れた缶バッジを来館者と共につくります。展覧会ごとにバッジのデザインも工夫されています。作品にもっと興味をもってもらい、鑑賞の体験を覚えていて欲しい、そんな願いが込められています。

トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー



建築家・前川國男が設計した東京都美術館の夜の姿はとて綺麗。ライトアップされた美術館の建築物としての魅力を、夜間開館日にとびラーがご案内します。ツアーコースはとびラーのオリジナルです。

「とびラボ」を開くときは
“この指とまれ式”

とびラーは、新しい活動のアイデアがひらめいたら「この指とまれ！」で他のとびラーを集めてチームをつくりまます。3人以上が集まったら「とびラボ」がはじまります。

STEP
1

STEP
3

解散！また結成

活動の目的を達成して、成果をとびラー自身でしっかりふりかえることができたなら、その「とびラボ」は解散します。そして、また新しいアイデアが生まれた時には「この指とまれ！」でもう一度仲間を募ります。チームの結成と解散をくり返すことで、常にフレッシュな対話の構造をつくりまます。

STEP
2

活動するときは
“そこにいる人が全て式”

集まったとびラーたちが自由に「とびラボ」を開きます。そこにいるとびラー全員でできることを考えることで、はじめのアイデアに他のとびラーのアイデアが重なって、新しいアイデアが生まれます。学芸員や大学教員らと相談しながら、とびラーオリジナルの活動が実施されていきます。

とびラー自身が活動を楽しんでいます。その活力は参加者へ伝播し、最後には参加者の眼差しとなってとびラーへ還ってきます。「その人らしさを肯定する」という土台があるからこそ、そうしたサイクルが生まれるのだと感じます。



とびラーになってからは、上野に向かう日はワクワクします。とびらプロジェクトは、世代もバックグラウンドも異なる仲間たちと、共に学び実践できる場です。こどもたちのミュージアム・デビューに立ち会えることも幸せです。



ラムが生まれました！

森のいきものになろう



「木々との対話」展会期中に開催した、親子で楽しめる造形ワークショップ。木の葉、木の実などをじっくり観察して、森に住む不思議な生き物に変身。こどもはもちろん、大人も集中して仮面をつくりました。

とびらボードでGO!



お絵描きができる磁気式のボードを使い、こどもたちが展示室の作品をモチーフに絵を描きます。最後はぬりえもできるポストカードにしてプレゼント。作品をじっくり鑑賞した思い出とともに持ち帰ることができます。

藝大卒展さんぽ



東京藝術大学の卒業・修了作品展の会期中に、藝大生と気軽に話をしながら作品を巡ります。他の参加者との会話も楽しみながら、藝大生から作品のコンセプトや、制作中の苦労話などが聞ける、一期一会の散歩コースです。

ヨリミチビジュツカン



学校や会社の帰りにぶらっとヨリミチ気分美術館へ。ひとりで鑑賞するのも楽しいけれど、美術館で知り合った誰かと一緒に作品を鑑賞し、お茶をしながら感想を話す、そんなひと時をとびらがつくれます。

- ① アートを知ることができ場所、というよりもアートをもっと知りたい!と思える場所です。
- ② 一見重そうな扉も、一緒に手を取って開いてくれる人と出会える場所です。
- ③ を、これから見つけたいと思える場所です。

いろんな方々との関わりが面白く心地よい活動の場です。経験がなくても学びつつ企画を進め、その中でいくつもの心ときめく場面に出会い、それが次への原動力となり面白さが広がっていく。そんな魅力がここにはあります。

これからゼミ

「これからゼミ」では、とびらプロジェクトを離れた後、どの様に活動していくのかについて考え、実践します。例えば、ゲスト講師を招いた勉強会の開催や、ワークショップの実践など、各自が自分たちのスキルアップに必要な講座を自らデザインし、取り組むことができます。「アート・コミュニケーション」としての総仕上げの場です。

任期満了後の活動



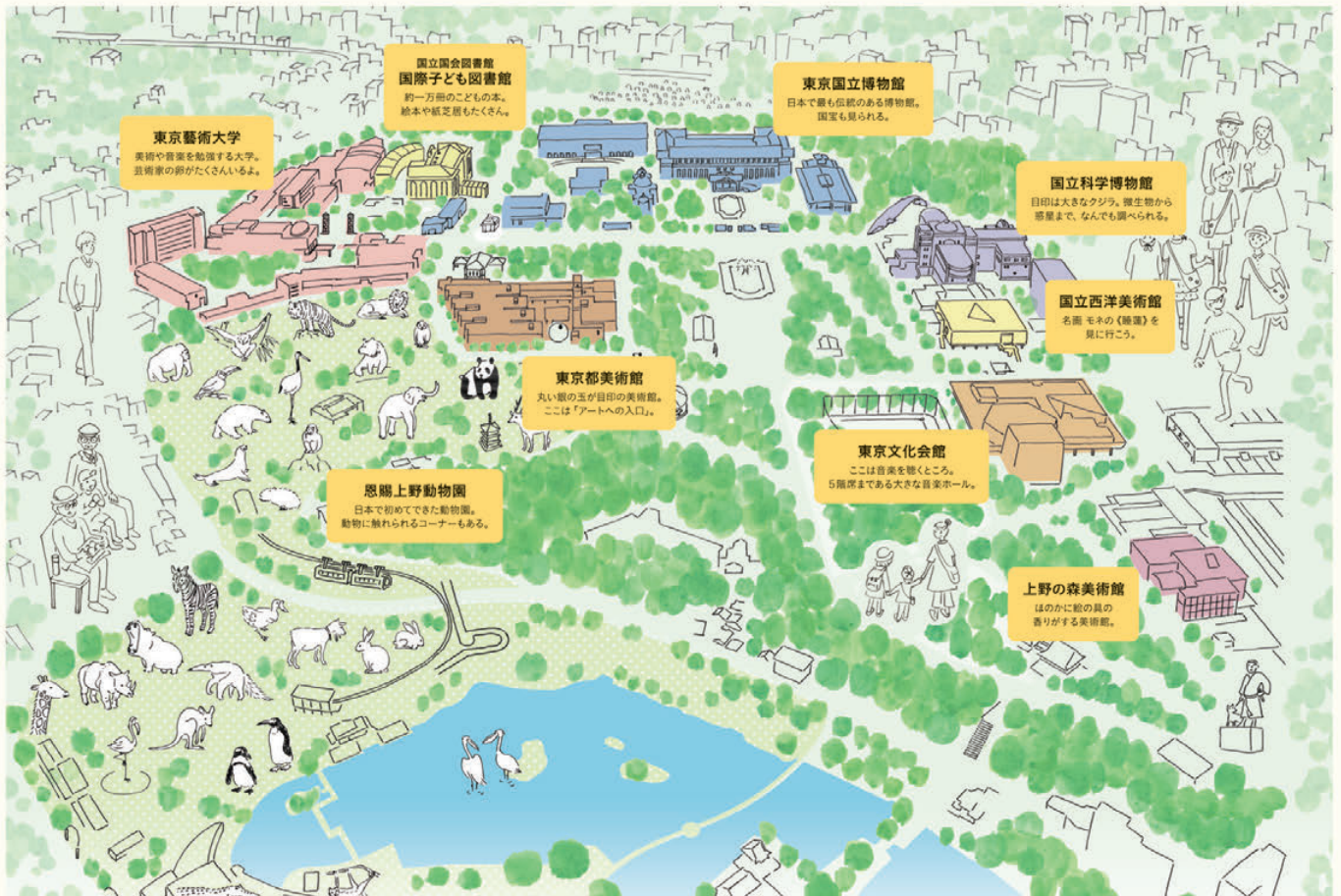
3年の任期を満了したとびらたちはそれぞれのコミュニティに戻ります。とびらプロジェクトでの3年間に会った人々とのネットワークや、活動や講座で習得したスキルを活かしながら様々な形で「対話」を大切に活動が続けています。美術館を拠点に育まれた沢山の小さな種が、広く社会の中で芽を出し、多様な人々、価値観を結び続けます。

関わり方はその人次第で、「皆ウェルカムだよ」という共通認識によって貴重な場が作られていると思います。そこで生まれる熱いエネルギーが化学反応を起こし、美術館、そして社会に何か新たな価値を加えていくかもしれません。得難い環境ですね。

プログラムに参加しているこどもたちを見ていると、インプットする感受性や言葉・文字・絵としてアウトプットする表現力に感心させられます。それは、一つ一つに思想・哲学があり、隔々にまで考え抜かれたプログラムに出会えたことに因るところも多いと思います。そのようなこどもたちに寄り添うことができることは楽しく、この上ない喜びです。



「とびらプロジェクト」は 「Museum Start あいうえの」と連動することで さらに活動の舞台が広がりました。



「Museum Start あいうえの」とは、東京都美術館と東京藝術大学が推進役となり、上野公園に集まる複数の文化施設が連携して行なうラーニング・デザイン・プロジェクトです。子どもたちの「ミュージアム・デビュー」を応援し、子どもと大人がフラットに学び合える環境を創造することを目的としています。とびらには各種プログラムのファシリテートやサポートを担当します。

Q あいうえの で検索!



主催/東京都、東京都美術館・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、東京藝術大学
共催/上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京文化会館（五十音順）

Q とびらプロジェクト で検索!

問い合わせ 東京都美術館 アート・コミュニケーション事業担当
〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36
Tel: 03-3823-6921 (代) メール: open@tobira-project.info

